



祐介の目

No.159

大田祐介 (福山市議会議員)

新基準原付

この正月に40年前のDT50に乗り、その写真をSNSにアップすると全国から驚くほど多くのコメントが寄せられた。皆さん懐かしい思い出が一杯ある様子で、80年代の原付黄金時代と自らの青春時代が重なった世代は幸せだった。さらに当時はミニバイクレース全盛期であり、私も高校を卒業してすぐにCB50改75でモトチャンプ杯2時間耐久レースに出場した。今思えば本当に無謀な挑戦だったが、その時抜群に速かった青木三兄弟がその後にはグランプリライダーとなり世界で大活躍したことは感慨深い。

私が原付免許を取った40年前は原付が年間200万台販売され国民の足だった。各種スクーター、スーパーカブ等のビジネスバイク、ミッシェン付きのスポーツタイプ等、色とりどりであった。中でもホンダMBX、スズキRGガンマ、ヤマハRZ、カワサキ

ARは本格的なスーパーゼロハンであり、ヤクルト(65cc)より小さなエンジンには6千回転以上回さないと発進すらできない。アクセルコントロールのシビアさはレーサー並みだった。ホンダは50ccにしてDOHC4バルブのドリーム50を世に出した。これらで腕を磨き大型バイクにステップアップしたライダーは多い。

高校生の時の私の愛車は新聞配達で買ったホンダCB50で、真冬の山陰ツーリングは忘れられない。しかし、当時に欲しかったのはヤマハのオフロードモデルDT50。10年前にやっと入手してレストアしたが、これに乗るとバイク乗りの「初心」を思い出す。常に神経を研ぎ澄ました運転が必要だが、そんな日本の工業技術の結晶と言える50ccは生産中止となる。

今年4月より道交法が改正され、原付免許は125ccまで拡大されることになった。理由は従来の50ccは日本でしか生産されておらず、販売数も激減している。そこで馬力を制限した125ccを「新基準原付」とし、従来同様の原付免許で乗れることにするそうだ。125ccになればトルクがあるので各段に乗りやすいだろう。